

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (甲信越)	◎	高級レストラン（経営者）	・夏に向け、土用の丑の日や夏祭りも控えているため、良くなってくると期待している。
	◎	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・ヒートショックという言葉があるように、寒い時期に亡くなる方が多かったが、今は高齢者の数が多いため、季節は関係なくなっている。また、1人暮らしの方が多く、僧侶も呼ばず、通夜も告別式もやらない、新しい時代が来た感じがしており、もう元には戻らないと考えている。
	○	スーパー（経営者）	・キャベツ、白菜、ほうれん草、玉ねぎ等が高騰しているため、客はなるべく安い材料で料理を作っている。ゴールデンウィークを過ぎると価格が落ち着いてくるらしいので、期待している。
	○	コンビニ（経営者）	・夏休みの帰省客と観光客の増加で、やや良くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・当店の立地上、ゴールデンウィークは落ち込むが、それ以降は繁忙期に向けて、来客数、販売数共に上向いてくる。
	○	家電量販店（店長）	・気温上昇に伴い、集客が増える。
	○	その他専門店〔酒〕（店長）	・相変わらず、インバウンドは堅調に伸びているようだが、それだけでは弱いと考えている。個人消費も伸びているが、飲食店も含めて全体がそろって初めて非常に良い景気になる。今後は給料が上がって、個人消費とインバウンドがけん引する形で、少し景気が良くなるのではないかと期待している。まだ、一進一退の状況ではある。
	○	一般レストラン（経営者）	・飲食業の場合、夏の商戦が重要である。今年はかなり暑い夏になるとの予想もあり、この先2～3か月は現時点よりは上向く。
	○	観光型旅館（経営者）	・円安の影響で、旅行先を海外から国内に振り替える客が出てくると予想している。夏から秋にかけては個人客の割合も増えて、現在不調の団体旅行の影響も余り大きくないため、売上は新型コロナウイルス感染症発生前に近い状況まで回復すると考えている。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・先の予約状況は好調に推移している。大きなイベント等も例年以上に予定されているため、早くから多くの客が動いているようにみえる。また、予約で1組当たりの人数も増加傾向にある。懸念材料としては、ゴールデンウィークの動きが少し鈍く、勢いが弱い。これが物価高の影響であった場合、この先の懸念材料にもなる。
	○	タクシー（経営者）	・制限なく皆が自由に行動でき、人流が戻るとみている。
	○	観光名所（職員）	・多くのインバウンドが押し寄せ、大変なにぎわいを見せている。日本人観光客は全体の2割程度とみられる。訪日外国人客を国別でみると、新型コロナウイルス感染症発生前と随分変わった印象を受ける。
	□	商店街（代表者）	・前年と同様の忙しさがあり、新学期の学校販売も終了したため、一安心している。
	□	商店街（代表者）	・所得税の定額減税が実施されるが、商材価格の値上げはこれからも予定されており、苦戦しそうである。観光客は宿泊料金の値上げの影響が顕著であるため、土産等の物販に回る分が減っているようにみえる。
	□	一般小売店〔家電〕（経営者）	・季節商材の動きを期待したいところだが、賃上げは商材の値上げには追い付かず、最小限の出費で必需品の購入に至っている。相変わらず、売手側には厳しい状況が続いている。
	□	百貨店（店長）	・旅行者やインバウンドの影響もなく、何か月も今一つの状況が続いている。今後も劇的に変わる要素はない。
	□	スーパー（副店長）	・今まで長い間、景気が良い、あるいは良くなったと感じられたことが正直ない。
	□	コンビニ（経営者）	・夜の客が段々と少なくなってきており、売上の的には厳しいが、昼間はほぼ変わらない状態なので、全体としては変わらない。
□	コンビニ（経営者）	・4月の売上はようやく前年並みになっている。物価が上がっているので、この先ずっと前年並みとは考えられない。	
□	コンビニ（経営者）	・来客数、単価等は上がっているものの、今後電気代の補助金が終了すると厳しくなる。	

□	コンビニ（店長）	・景気は身の回りの温度変化といった環境の変化で変わるくらいで、特別皆が困っているとか、収入が良くなったという状況ではないとみられるので、余り変わらないのではないかと。
□	衣料品専門店（経営者）	・変わらないというより分からない。そう簡単に良くなるとは考えられない。
□	衣料品専門店（経営者）	・物価高で消費者の財布に大変厳しい状況が続いている。
□	自動車備品販売店（従業員）	・賃上げの動きは進んでいるものの、いまだ節約志向も強く、現況と変わらない。
□	一般レストラン（経営者）	・微増が続くような気がしており、大きな増加は期待していない。
□	スナック（経営者）	・変わらないと回答したが、これ以上悪くならないよという意味での変わらないである。本当に給料が上がる方法はないのだろうか。
□	スナック（経営者）	・3～4月の歓送迎会等の予約はほとんど入らず、小規模な会ばかりで売上にはなかなかつながらなかったため、今後2～3か月はかなり厳しい状況が続く。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・4月は単月でかなりの実績を残したので、5月以降にこれ以上良くなるとはいえない。ただし、逆に下振れることもないとみている。ゴールデンウィーク後の客足で県外客がどれだけ来てくれるか少し心配だが、ゴールデンウィーク期間は好調に推移している。
□	都市型ホテル（スタッフ）	・5月から7月と動きがかなり鈍い。市内全体で宿泊料金が上がっていることもあいまって、宿泊を控えているのか。正の流れが分からない。
□	タクシー運転手	・このところ、物の値上がりが続き、給与が追いつかない状態で、現状維持かやや悪くなるかというようなところだとみている。
□	通信会社（社員）	・他社の高速インターネット回線大容量サービスに、どの程度影響を受けるか未知数である。当社も新規エリアの拡張が始まるため、地道に加入数を伸ばしていきたい。
□	遊園地（職員）	・パブリシティの獲得やイベントの開催等、積極的な集客施策の実施や情報発信を行い、より多くの客の来園を期待している。
□	ゴルフ場（副支配人）	・平日の来場者の多くは60歳以上の高齢者で、収入の増加が見込めないため、状況は変わらない。
□	その他レジャー施設 [ボウリング場]（経営者）	・今後、団体客の利用が戻ってくれば、新型コロナウイルス感染症発生前の水準まで戻る。徐々にではあるが、団体の予約も入り始めている。
□	設計事務所（職員）	・従業員数に比べて、計画物件が少ない。
□	住宅販売会社（経営者）	・企業業績が好調であり、賃上げや株高などから別荘需要は今後も堅調に推移する見込みである。
▲	商店街（代表者）	・どこまで落ち込むのか不安である。
▲	百貨店（経理担当）	・ターミナル駅の再開発で、駅に多くのテナントが開業した。2キロメートル圏内に競業エリアが出現したことにより、しばらくは食品を中心に影響を受けるものと推測する。
▲	百貨店（営業担当）	・電気料金の補助金が終了し、円安傾向のなかで、再び食品等は値上げになる。中東の問題もあり、賃金については中小企業ではそれほど上がったという実感はない。先行きはなかなか難しい。
▲	スーパー（経営者）	・新型コロナウイルス感染症の5類移行は、ゴールデンウィーク明けで一巡するが、来客数や買上点数がどう動くか注視している。
▲	スーパー（店長）	・割引セールの日には客が集中する傾向にあり、買物回数やし好品への買い控えが見受けられる。
▲	乗用車販売店（経営者）	・足元の受注が鈍ってきている。新車価格や維持費の上昇から、購入に慎重な商談が増えてきている。
▲	スナック（経営者）	・悪くなった原因がよく分からないため、先行きも見当がつかない。今のところ、良くなりそうな気配がないので、しばらくは悪いのではないかと心配している。

	▲	旅行代理店（副支店長）	・半導体関係の企業業績が悪化傾向にあり、ゴールデンウィークの受注も伸び悩んでいる。海外旅行は円安に伴い旅行代金が値上げされ、客の負担が大きく需要が少ない。今後の更なる為替変動により、景気落ち込みの影響が懸念される。
	▲	通信会社（社員）	・上向きになるトピックがない。
	×	ゴルフ場（経営者）	・株価上昇により大手企業や投資家は潤ったかもしれないが、地方の中小零細企業は置き去り感が強い。
企業 動向 関連 (甲信越)	◎	金属製品製造業（総務担当）	・半導体が回復し、良くなる。
	○	食料品製造業（営業統括）	・インバウンド効果や円安による国内旅行が増加して、工場見学者も多くなり、消費効果が期待できる。
	○	建設業（経営者）	・資材の価格上昇が緩やかになり、安定してくるとみている。
	□	食料品製造業（総務担当）	・前年と同様に今年も猛暑が予想されているため、変わらない。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・商材受注の増加に期待が持てる上に、新製品の展開にも期待している。
	□	金融業（調査担当）	・製造業は従来同様の動きが続くものの、下げ止まりも予想される。非製造業は国内、海外の観光関連を中心に、底堅い需要が継続する見通しである。
	□	金融業（経営企画担当）	・観光関連業は海外からの旅行者が多く、引き続き良い方向にある。一方、機械関連業等は受注の差がある。国内消費は物価上昇により変わらない。
	□	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	・前年後半から海外旅行需要が回復してきたが、ここ最近の大幅な円安傾向により、キャンセルや受注量減少の影響が出ている。
	▲	食料品製造業（製造担当）	・他のメーカーが値上げをしないと、地元業者と大手企業との価格差がどんどん広がり、ますます安い物が買われるようになる。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・継続する円安で、輸入価格の高騰も続き、耐久消費財への支出抑制は改善されないと予測している。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・案件はあるものの、海外部品の入荷が遅延し調整できない上、人件費と材料費や光熱費の高騰で利益率が低下し、厳しい状態になりそうである。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	・度重なる値上げに対して、当社製品の販売価格への転嫁が追い付いていない。また、今後は円安による燃料の価格高騰も予想され、大変不安である。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが大変である。
		×	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）
雇用 関連 (甲信越)	◎	—	—
	○	職業安定所（職員）	・円安、物価高、海外経済の影響等、マイナス要因はあるものの、今後大手のみならず中小零細企業までベースアップが拡大することで、消費行動の活発化が期待される。また、半導体不足の改善等により製造業の受注増加が期待できる。インバウンドを中心とした観光需要や消費拡大が引き続き期待されることから、全体としてやや良くなる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・連休の外出予定の話は少なく、派遣スタッフは時間給のためか出勤するスタッフが多い。最近特に時給アップの声が多く、対応に苦慮している。
	□	求人情報製作会社（総務担当）	・今のところ、変わる要素がない。
	□	職業安定所（職員）	・3月は新規求人数及び有効求人数が前年同月比で減少し、これまでの改善の動きに足踏み感がある。
	▲	職業安定所（職員）	・物価高などの影響が、より一層表れてくる。
	▲	民間職業紹介機関（経営者）	・円安や物価高のためか、企業の採用マインドに消極的な姿勢がみられる。将来への不安を口にする企業が目立ち始めている。

